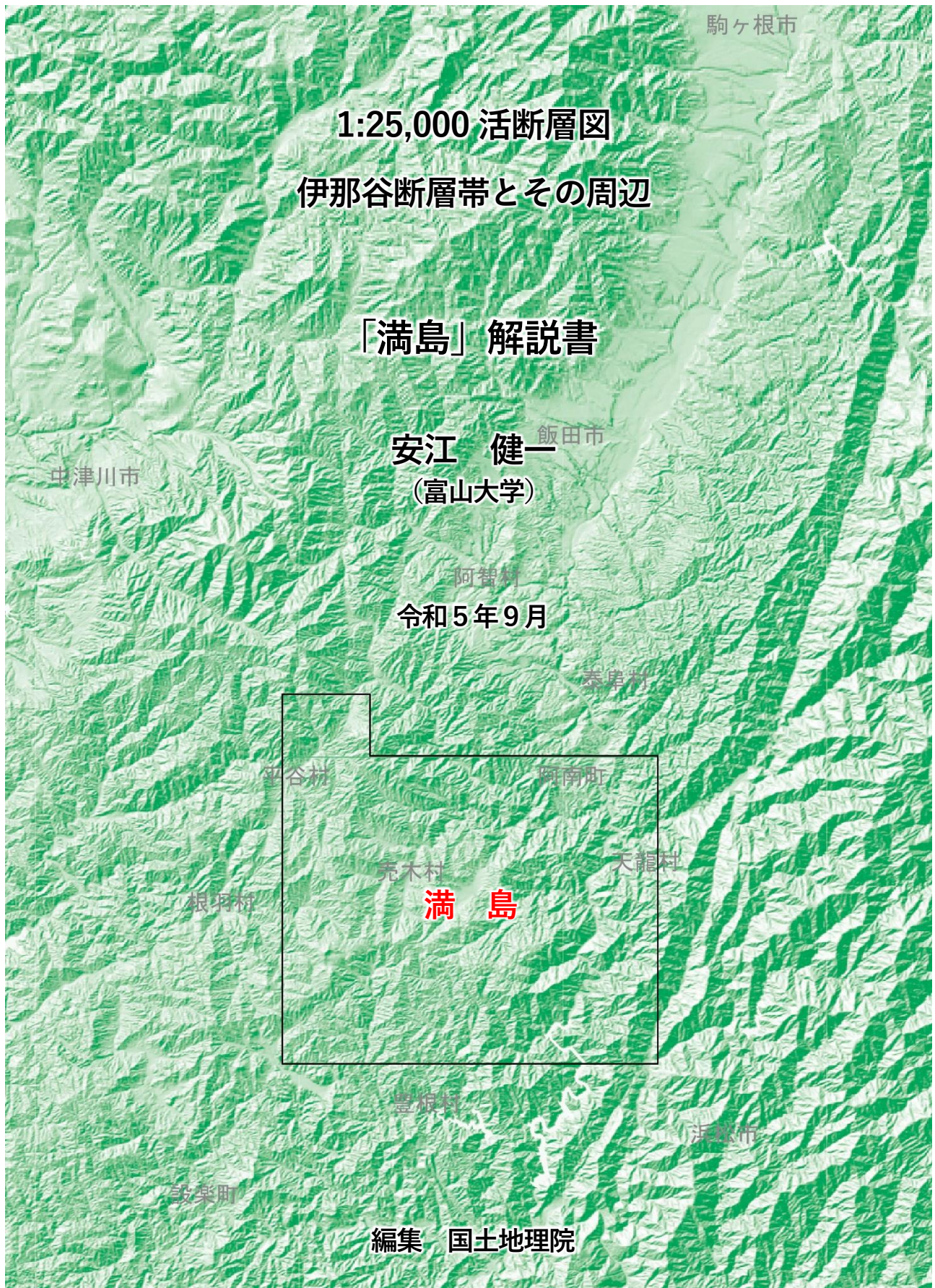
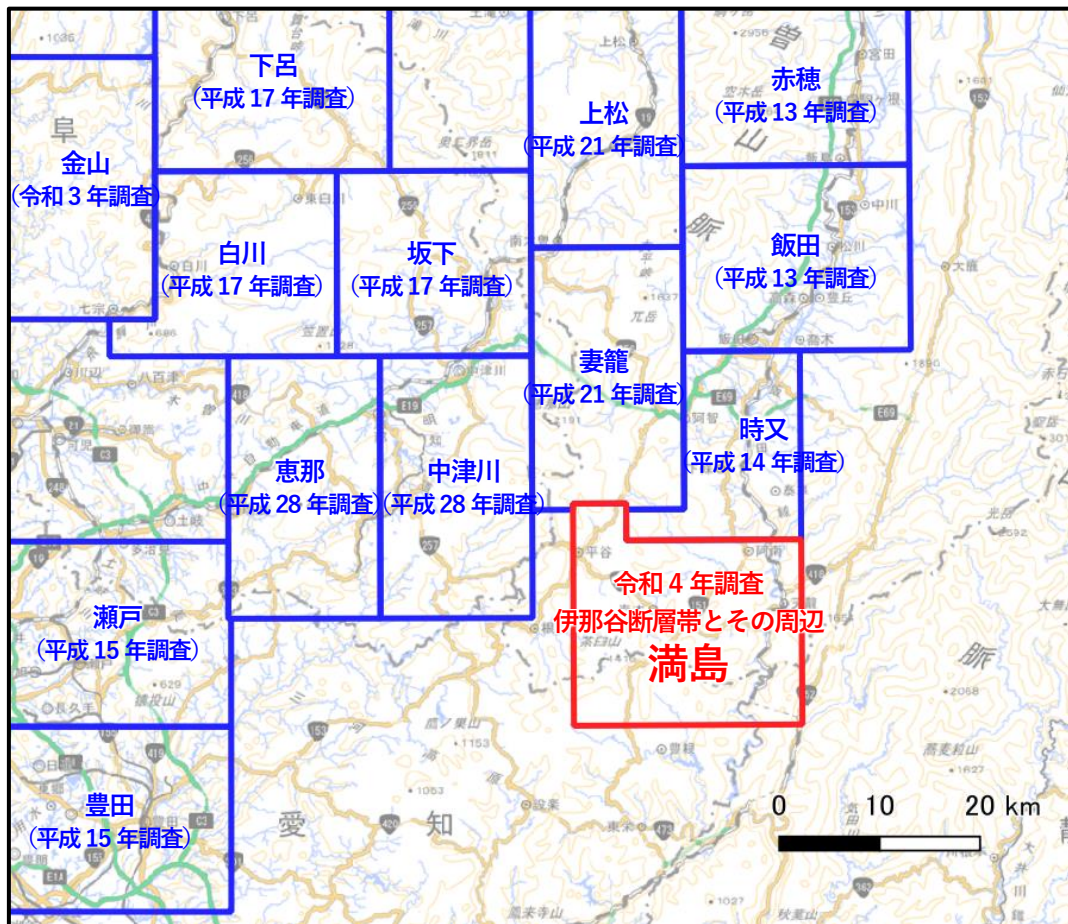




目 次

1:25,000 活断層図 伊那谷断層帯とその周辺「満島」解説書

1. 新野断層 ^{にいの} ・	2
2. 鈴ヶ沢断層 ^{すずがさわ} ・	3
3. 三州街道活断層 ^{さんしゅうかいどう} ・	4
4. 平岡活断層 ^{ひらおか} ・	4
5. 富草断層 ^{とみくさ} ・	5
6. 浜松市天竜区大原 ^{おおはら} 付近の断層・	6
7. 根羽村八丁平 ^{はちちょうだい} 付近の断層・	6
8. 売木村奥小屋 ^{おくごや} 付近の断層・	6
引用文献・	7
使用空中写真, 使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等・	8
付図 (断層索引図)・	10



□ 令和4年調査図郭 □ 令和3年以前の調査図郭

1:25,000 活断層図「満島」作成位置図

1:25,000 活断層図 伊那谷断層帯とその周辺「満島」解説書

伊那谷断層帯は、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2007）によれば、木曾山脈とその東側の伊那盆地の境界に位置し、伊那谷断層帯主部及び伊那谷断層帯南東部からなるとし、本図郭に含まれる伊那谷断層帯南東部について、以下のようにまとめられている。

伊那谷断層帯南東部は、長野県飯田市から下伊那郡阿智村、同郡下條村、同郡阿南町を経て同郡売木村に至る断層帯である。長さは約 32 km で、概ね北北東－南南西方向に延びる。本断層帯南東部は断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層で、南端部で右横ずれを伴う。

本図には、伊那谷断層帯を構成する新野断層、鈴ヶ沢断層、三州街道断層、平岡断層及びその他の推定活断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. ^{にいの}新野断層

- ・走向 ： 北東－南西ないしは東北東－西南西
 - ・長さ ： 約 22 km
 - ・断層種別 ： 活断層（右横ずれが主体）、推定活断層
- （※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

新野断層は、本図において阿南町井戸^{いど}から愛知県設楽町木地山^{きじやま}まで、北東－南西方向に延びる長さ約 22 km の右横ずれ変位を主体とする活断層（一部推定活断層を含む）である。概形は、活断層研究会編（1991）の活断層（確実度Ⅱと確実度Ⅲ）のトレースと概ね一致し、長さ 5～10 km 程度の断層トレースが一部並走しながら連続する。なお、本図では最も北側で売木川とその支流に沿って分布する断層トレースを活断層と判断した。この活断層は、水野ほか（2002）の新野断層と概ね一致する。水野ほか（2002）は、北西側低下を図示し、地形・地質学的記載として尾根線・河谷の右ずれ屈曲、低位段丘層の撓曲露頭を記している。それ以外の断層トレースについては断層変位地形が不明瞭なため、すべて推定活断層として図示した。

（2）判読根拠

新野断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

- 1a： 直線状の深い谷に沿って小河谷の右屈曲や中位段丘面上に低崖が形成されている。低崖は、その両側の面が同じように北傾斜していることから、河川侵食や人工改変による崖とは考えにくく、段丘面形成後の断層変位による低断層崖である可能性が高いと判断した。この付近だけ局所的に高さが異なる複数の段丘面が発達することも断層の上下変位で説明することができる。

1b： 直線状の谷に沿って鞍部が連続するとともに複数の河谷に系統的な右屈曲が認められることから活断層と判断した。

1c： 複数の河谷に右屈曲が認められるが、屈曲がやや不明瞭なこと、小河谷や山地斜面に断層変位を示す明瞭な地形が認められないことから、推定活断層と判断した。池之島付近の和知野川左岸の崖に破碎帯が大規模に露出している。断層トレースから数十m 離れているが、本断層がこの破碎帯の形成に関係している可能性がある。なお、新野断層沿いの北東-南西方向の盆地を形成するために、南東側の山地が隆起する必要がある、本断層がその隆起をもたらした可能性がある。

1d： 直線状の谷に沿うリニアメントが認められ、南西端付近では鞍部や河谷の右屈曲が認められるが、これらの地形は不明瞭で連続性に欠けることから、推定活断層と判断した。

1e： リニアメントを境に北西側が高くなる高度不連続が明瞭であり、リニアメントに沿って鞍部や河谷の右屈曲が認められるが、連続性に欠け、屈曲がやや不明瞭である。また、リニアメントは、地質境界と一致しており、組織地形の可能性がある。これらのことから、推定活断層と判断した。

2. ^{すずがさわ}鈴ヶ沢断層

- ・走向 : 北西-南東
- ・長さ : 約8 km
- ・断層種別 : 活断層（左横ずれが主体）

（1）概要

鈴ヶ沢断層は、平谷村の^{ごさごやとうげ}五座小屋峠から阿南町^{ほどの}程野まで、北西-南東方向に延びる、左横ずれを示す長さ約8 km の活断層である。今泉ほか編（2018）の鈴ヶ沢断層帯の位置とほぼ一致する。

（2）判読根拠

鈴ヶ沢川の左岸の山腹斜面に北西-南東方向のリニアメントが分布し、これを横断して南西へ流れる複数の河谷の系統的な左屈曲と鞍部の連続が認められる。阿南町金谷付近から南東側では、山腹斜面に見られる河谷の左屈曲が鈴ヶ沢川の上流に向かって屈曲するほか、鞍部、直線状の谷、分離丘状の地形が連続する。これらの変位地形の連続及び明瞭さから、活断層と判断した。

3. 三州街道断層^{さんしゅうかいどう}

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 6 km
- ・断層種別 : 活断層（右横ずれが主体，一部縦ずれ，伏在部を含む），推定活断層（※上記の各諸元については，本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

三州街道断層は，1:25,000 都市圏活断層図「飯田」（鈴木ほか，2002）図郭の飯田市梅ヶ久保^{うめがくぼ}から本図の平谷村起畑^{おこしはた}の西方まで，北北東－南南西方向に延びる活断層である。

本図では阿智村の治部坂^{じぶさか}の北方から平谷村起畑の西方まで，北東－南西方向に延びる長さ約 6 km の活断層が記載されている。概形は，活断層研究会編（1991）の活断層（確実度Ⅰと確実度Ⅲ）のトレース，および水野ほか（2002）の昼神断層（南部）と概ね一致する。

（2）判読根拠

この付近を境に北西側の山地が高く，航空レーザ測量データを用いた地形判読によって，段丘面上に北西側隆起（南東落ち）の低断層崖，鞍部，河谷の右屈曲が複数地点で確認されたことから，活断層と判断した。また，この活断層から南側へ分岐する断層トレースを図示したが，断層変位地形が不明瞭であることから，推定活断層と判断した。

4. 平岡断層^{ひらおか}

- ・走向 : 東北東－西南西ないしは北東－南西
- ・長さ : 約 14 km
- ・断層種別 : 活断層（右横ずれが主体，一部伏在部を含む），推定活断層（※上記の各諸元については，本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

平岡断層は，本図において天龍村平岡^{ひらおか}から同村大河内^{おおこうち}まで，北東－南西方向に延びる長さ約 14 km の区間が記載されている。本断層は，右横ずれ変位を伴う活断層（一部推定活断層を含む）が確認される。概形は，岡田（1979）が示した天龍村神原付近から北東へのびて遠山川河谷に沿う活断層とほぼ一致する。また，今泉ほか編（2018）の推定活断層の位置とほぼ一致し，本図ではさらに西南西方向に約 2.6 km 続く。本断層は，遠山川断層とも呼ばれており，1718 年 8 月 22 日の遠山地震の震源断層の一つとされている（天龍村史編纂委員会編，2000）。この地震では，本断層沿いで山崩れ，沢の崩壊，地割れ，跳び石による死者など多くの被害が出ている（伊那谷自然友の会編，1997；天龍村史編纂委員会編，2000）。

（2）判読根拠

平岡断層の主な地点ごとの判読根拠は，次のとおりである。

4a： 明瞭なりニアメントに沿って直線状の谷，鞍部が認められ，このリニアメントの南

西延長では沖積錐に北西側が僅かに低い直線的な崖（比高 1～2 m 程度）が確認される。また、満島神社東側の直線状の谷には、破碎帯が露出している。これらの地形・地質学的特徴だけから、活断層と判断することは困難であるが、後述する 4b の根拠も踏まえて活断層と判断した。なお、本トレースの北側には、大きく崩壊している谷地形と山地斜面が直線状に連続しており、谷と天竜川との合流付近には基盤岩中に破碎帯と断層面が観察できるが、活断層を示す証拠として不十分であることから、推定活断層とした。

4b： 天竜川沿いの斜面を流れる複数の小河谷が天竜川の上流に向かって右屈曲し、小規模な鞍部が複数地点で連続することから、活断層と判断した。

4c： 複数の河谷の系統的な右屈曲と鞍部の連続が認められる。活断層とした北東側からの断層トレースの延長であることも踏まえて活断層と判断した。

4d： リニアメントに沿って複数の河谷に右屈曲が認められるが、屈曲がやや不明瞭であることから、推定活断層とした。

その他の推定活断層としては、^{とみくさ}富草断層、浜松市天竜区大原付近の断層、^{はつちようだい}根羽村八丁平付近の断層、^{おくごや}売木村奥小屋付近の断層が記載されている。

5. ^{とみくさ}富草断層

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

阿南町田上付近に位置し、北西－南東方向に延びる推定活断層である。活断層研究会編（1991）の下伊那竜西断層、水野ほか（2002）の富草断層に相当する。

本図では南端にあたる長さ約 0.5 km の推定活断層が記載されており、北側の都市圏活断層図「時又」（岡田ほか，2003）図郭へ連続する。

（2）判読根拠

本断層は、南西側の花崗岩と北東側の中新統の境界に位置し、弁当山の北東側斜面に傾斜変換が認められることから北東側低下の上下変位を伴うことも想定されるが、低断層崖などの活断層であることを明確に示す地形的根拠に欠けること、地質境界と一致しており組織地形の可能性があることなどから、推定活断層と判断した。

6. 浜松市天竜区大原^{おおはら}付近の断層

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・長さ : 約 0.5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

静岡県浜松市天竜区大原付近に位置し、北北東－南南西方向に延びる推定活断層である。

本図では長さ約 0.5 km の推定活断層が記載されており、図外へ連続する。概形は、活断層研究会編(1991)の活断層(確実度 I)のトレースとほぼ一致する。この断層は、中央構造線の一部であり、系統的な右ずれの河谷変位から、最近の地質時代でも右ずれ運動が伴われていると考えられている(岡田, 1973)。

(2) 判読根拠

南方の図外から直線状の谷、鞍部、分離丘状の地形、河川の右屈曲が連続するが、地質境界と一致しており、組織地形の可能性があるので、推定活断層と判断した。

7. 根羽村八丁^{はっちょうだい}平付近の断層

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約 1 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

根羽村八丁平付近に位置し、北西－南東方向に延びる推定活断層である。

本図では長さ約 1 km の推定活断層が記載されており、図外へ連続する。

(2) 判読根拠

リニアメントに沿って河谷の左屈曲が認められるが、長さが短く連続性に欠けることから、推定活断層と判断した。

8. 売木村奥小屋^{おくごや}付近の断層

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約 2 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

売木村奥小屋付近に位置し、北西－南東方向に延びる長さ約 2 km の推定活断層である。

今泉ほか編（2018）の推定活断層の位置とほぼ一致する.

（2）判読根拠

山地斜面を横切る明瞭なリニアメントが認められるが、長さが短く連続性に欠けることから、推定活断層と判断した.

（富山大学准教授 安江 健一）

引用文献

- 今泉俊文・宮内崇裕・堤 浩之・中田 高編（2018）：「活断層詳細デジタルマップ [新編]」. 東京大学出版会, 154p+USB メモリ.
- 伊那谷自然友の会（1997）：「伊那谷の自然Ⅱ－過去・現在・未来－」. 社団法人中部建設協会, 526p.
- 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2007）：伊那谷断層帯の評価（一部改訂）. 36p.
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/51_inadani_2.pdf
（2023 年 2 月 1 日閲覧）
- 活断層研究会編（1991）：「新編日本の活断層－分布図と資料－」. 東京大学出版会, 437p.
- 水野清秀・寒川 旭・関口春子・駒澤正夫・杉山雄一・吉岡敏和・佐竹健治・刈谷愛彦・栗本史雄・吾妻 崇・須貝俊彦・栗田泰夫・大井田徹・片尾 浩・中村正夫・森尻理恵・広島俊男・村田泰章・牧野雅彦・名和一成（2002）：50 万分の 1 活構造図「京都」（第 2 版）説明書. 活構造図 11, 産業技術総合研究所地質調査総合センター, 50p.
- 岡田篤正（1973）：中央構造線の第四紀断層運動について. 杉山隆二編「中央構造線」. 東海大学出版会, p.49-86.
- 岡田篤正（1979）：愛知県の地質・地盤（その 4）[活断層]－愛知県と周辺地域における活断層と歴史地震－. 愛知県防災会議地震部会, 122p, 付図.
- 岡田篤正・鈴木康弘・中田 高（2003）：1:25,000 都市圏活断層図「時又」. 国土地理院.
- 鈴木康弘・池田安隆・澤 祥・田力正好・廣内大助（2002）：1:25,000 都市圏活断層図「飯田」. 国土地理院.
- 天龍村史編纂委員会編（2000）：「天龍村史 上巻」. 長野県下伊那郡天龍村, 1265p.

使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/40,000	M387, M476, M628-1, M1070
米軍（モノクロ）	1/10,000	R864, R1073
国土地理院（カラー）	1/10,000	CCB7612, CCB7615, CCB7617, CCB7618, CCB7716
国土地理院（モノクロ）	1/20,000	MCB659X
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山 420, 山 452

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院が管理する航空レーザ測量データから作成した 1mDEM と，長野県林業総合センターが公開している 0.5mDEM を使用.

満島

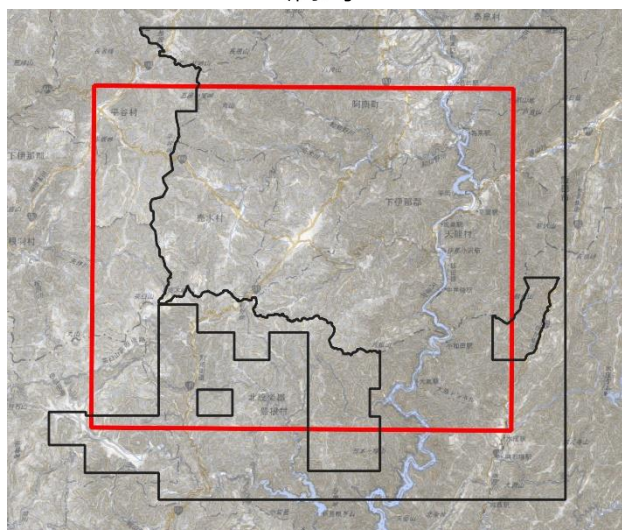


図1 航空レーザ測量データ使用範囲（黒線包囲部分）.

なお，黒線包囲分以外は「基盤地図情報数値標高モデル（5mDEM ないし 10mDEM）」を使用した.

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第1回委員会	令和4年8月22日(月) Web 会議
第1回全体部会（クロスチェック）	令和4年8月26日(金) イオンコンパス 東京八重洲会議室
地域部会（クロスチェック）	令和4年11月23日(水,祝) イオンコンパス 東京八重洲会議室
第2回委員会	令和4年12月19日(月) Web 会議
第2回全体部会（クロスチェック）	令和4年12月23日(金) イオンコンパス 東京八重洲会議室

b. 伊那谷断層帯とその周辺「満島」の作成委員（令和4年度）

図 名	氏 名	所 属
満島	○ 安江 健一	富山大学准教授
	熊木 洋太	専修大学教授
	小山 拓志	大分大学准教授
	田力 正好	公益財団法人 地震予知総合研究振興会主任研究員

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305－0811 茨城県つくば市北郷1 番
電話：029（864）1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

安江健一・熊木洋太・小山拓志・田力正好（2023）：1:25,000 活断層図「満島」．国土地理院．

b. 解説書を引用する場合

安江健一（2023）：1:25,000 活断層図 伊那谷断層帯とその周辺「満島」解説書．国土地理院．10p.

時

